



梅島小だより

寄り添うこと

校長 江原 敦史

今年度の鋸南自然教室での出来事です。

2日目に富山を登った時、ある子が登るのに苦労していました。

急な山道は、どの子にとってもたやすく簡単に登れるものではありません。

最後尾から着いて行った私は、子ども達の登る様子を見守っていました。

すると、ある子どもが「大丈夫?」「頑張ろう!」「私が一緒についているからね!」と明るく元気な励ましの言葉をずっとかけながら、登るのに苦労している子の歩く速さに合わせて寄り添いながらやさしく歩いているのに気が付きました。

自分も簡単には登れない状況の中、明るい雰囲気を作りながらずっと寄り添って励ましているその子の姿に、私は感動しました。

苦労して登っていた子も弱音を吐くことなく、みんなと一緒に見事に頂上までたどり着くことができました。

子どもの力はすごい!と感じました。

相手の立場に立ち、思いやりの心で接することのできたこの子の気持ちは、相手の子の心に響いていたのだと思いました。

大人として、また、教師として大切なことを子どもから教わった出来事でした。

相手の立場に立つというのは、言うは簡単ですが、実際に行動することは簡単なことではありません。

5月のある日の全校朝会で、私はこの出来事を紹介しながら「相手の立場に立ち思いやりの心で接することの大切さ」を伝えました。

6月は、ふれあい（いじめ防止強化）月間です。

梅島小の子どもたちが、相手の立場に立ち、思いやりの心をもって学習や生活に取り組めるよう、教職員一同努力してまいりたいと思います。